

社 報



意味がないムダな仕事 (2)

「ちょロック」

開発中の角締め金物ですが、ようやく完成いたしました。



名前の由来ですが、

直交部をロックすること。

従来のロックを超えた、「超」

ちょっとの手間でロックできる。

特許も取得しました。

現場での本格的実用試験も開始しますのでよろしくお願ひします。



また、ただだらと残業したって生産性が高まるとはとても思えません。会社とは、あくまでも利益を出す場所。これらはまったくもって意味のない行為です。

1人ひとりが疑わなければならないこういった無意味なルール、無意味な時間の考え方を、いまこそ1人ひとりが疑わなければならないのだと思います。

「それって本当に効率がいいの？」

「これがなにかを生み出しているの？」

「誰かが幸せになるものなの？」

1人ひとりが自覚的に、自らに問いかけることが大切なのです。「なぜ全社員が同じ時間に出社する必要があるのでしょうか」こんなことを言えば、「現場はもう動いているんだ！」と言り返されるのがオチです。

多くの会社は、工場や店舗や工事現場を基準にして、自分たちの出社時間を朝8時半や9時に定めています。「現場でトラブルがあったときに連絡がつかなければ問題になる」とは、もっともらしい理由かもしれませんが、でも、これだけスマートフォンが普及した時代に、来るかどうかもわからない連絡をオフィスで待ち受ける必要が、はたしてあるのでしょうか？

業務の効率だけを考えれば、全社員が同じ時刻に出社する必然性はありません。なのに、なぜみんなが朝9時にそろっていなければならないのでしょうか。結局のところ、こんな理由だったりします。「不公平になる」「現場は早く出ているのだから、本社や本部もそうするほうがいい」という考え方です。

朝9時に一斉に出社するので、電車も道路も混んでいるし、エレベーターには長蛇の列。こんなことでは社員の生産性は上がるはずがありません。朝7時に出社して15時に仕事を終わらせて帰るほうが、ずっとマシでしょう。もちろん、昼ごろに出社して夜に終わるというパターンだってありますよね。こうした考え方ができない会社がなぜ多いのか。僕は、みんなの心のどこかに「現場は早くから動いていて悪いかから、それに合わせよう」という日本人特有の気質があるからではないかと感じてしまうのです。

■常識を疑うことが、あなたを変える。勇気を出して、あなたのなかに生まれた疑問を大切にしなければなりません。思い込みを捨て、自分の頭で自由に思考し、行動を変えていきましょう。

仕事のやり方を考える

作業計画とか作業手順など、自らが計画をして、その計画の安全性を評価して、特に危険な作業は、災害を防ぐべく、災害防止策を立案して計画の中に盛り込めば、災害が防止できる、と言われていました。準備・段取りは、昔からその大切さが言われています。もちろん大きな仕

事は書類化も必要でしょうが、仕事と言うのは、一人ひとりの作業の集合体です。書類化だけで安全は確保できません。

必ず、人の思いが先行します。

そしてその思いが、行動に現れるのです。今月も事故がありませんように。(拝)

2021年 安全成績

■現場災害 2021.1.1-9.5

休業災害 ----- 0

不休災害 ----- 0

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 0

■交通災害 2021.1.1-9.5

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 1

合計 ----- 1